

校種間の連携とリフレクションを促す安全教育の推進 ー 主体性コモンルーブリックとICT活用を通して ー

【 キーワード 防災・減災・防犯 校種間の連携 リフレクション ルーブリック ICT活用 SPS (Safety Promotion School) 】

① はじめに

背景・これまでの取り組み



(1) スーパーグローバルハイスクール

本校SGHは、「多面的に“いのち”を考えるグローバル・リーダーの育成」で、最も普遍的な価値をもつ“いのち”を取り上げ、「医療・保健」「防災・減災」「格差・貧困」の3つの研究領域において生徒一人ひとりが研究に取り組んできた【図1】。

(2) ワールド・ワイド・ラーニング



WWLになってからも、「防災」にかかわる課題研究に取り組む生徒がおり、興味・関心が高い生徒がいる【図2】。平野地区は幼・小・中・高・特別支援学校があり、自然災害発生時に、共に助け合うことが求められる。いっぽうで、訓練になると年齢が高くなるにつれて、緊張感が薄くなる傾向がある。

② 概要

ー 五校園の良さを生かした訓練の実施 ー

(1) 校種をこえた学校園における連携

① 合同訓練で児童・生徒の役割の意識化

☑中学生が幼稚園児の手をとり、ともに避難を行う。
☑高校生は、河川津波に備えて外にある備蓄倉庫から物資を屋上へ運ぶ。

② Microsoft社「Teams」の活用による情報共有

☑幼・小・中・高・特別支援学校との学校間のつながりの強化→時系列に情報共有を正確かつ効率的に行えた。
☑教員どうし、教員と事務、附属学校課とのつながりの強化

③ 動画による振り返り

☑訓練の様子を動画で撮影し、あとで教職員が振り返りを行い、警察・消防の方から指導をいただいた。→客観的に振り返り、自分の担当していない場所での対応も学ぶ機会となった。

(2) 考える訓練の実施と振り返りを促すしかけづくり

① 危険予測を考える時間の設定

☑学校内(授業中や休み時間等)・登下校とさまざまな場面において、地震・火事等災害が発生したとき、不審者と遭遇したときなどの対応方法を考えさせるワークを実施→個人・ペア・グループで主体的に考えた。

② 主体性コモンルーブリックの活用【図3】

☑高校生の発達段階において、自助・共助・公助の観点でどのような行動が望ましいか、訓練や自身の行動を振り返る時間を十分にとった。

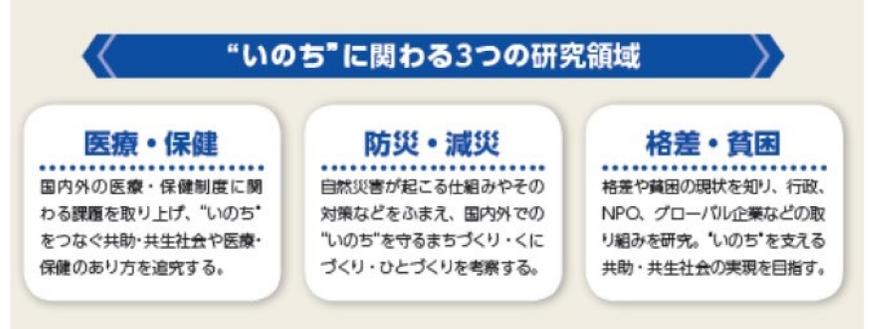
③ 大阪市危機管理室・平野区役所・防災士との連携

☑3年間、教材「市民防災マニュアル」・「大阪市水害ハザードマップ」・「平野区防災マップ」を事前学習および事後学習で活用した。また、コロナ禍は防災士による防災学習をZOOMで実施した。

④ 平野警察署・消防署との連携

☑訓練には立ち会っていただき、訓練後には学校安全管理委員会で指導をいただいた。別日に事前打ち合わせ・振り返りを行い、日常から連携を行っている。

【図1】SGHにおける課題研究



【図2】WWLにおける課題研究

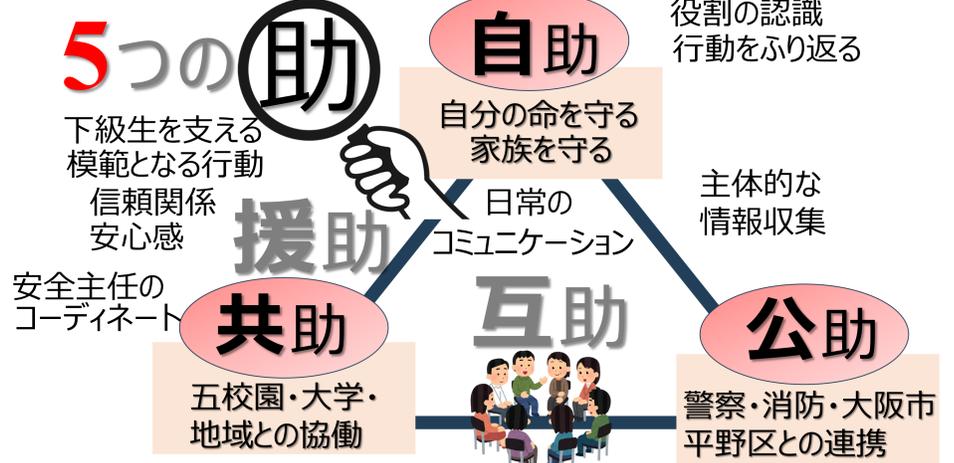
グローバル探究Ⅰ	1年全員 1単位	【共通】研究の様々な手法やデータに基づく論理的な考えを学び、研究活動に取り組む。 【平野校舎】平野校舎が研究開発した、探究活動の指導評価の方法「平野メソッド」を活用し、共同研究に欠かせないチーム・ビルディングから課題発見、論理的思考、調査方法など、一連の研究手法を学び、SDGsの達成を目指した研究活動に取り組む。 【池田校舎】SDGsの知識を深めるとともに、IB(International Baccalaureate)のTOK(Theory of Knowledge)を参考とした批判的思考を学び、探究活動に取り組む。またIBのCAS(Creativity, Action, Service)の内容やEE(Extended Essay)にも取り組む。
グローバル探究Ⅱ	2年全員 2単位	【共通】グローバルな社会問題について考え、SDGsの達成につながる研究を行う。その際、文理融合の課題解決の発想や、イノベティブな課題解決の発想が必要なことから、複数教科の教員や大学・企業等の専門家、外国人講師等の指導を得ながら探究活動を行う。希望者は海外連携校との国際共同研究や、国内連携校との共同研究にも取り組む。 【平野校舎】海外研修(タイ、カンボジア)を通して研究テーマの理解を深め、さらにデータ収集、調査を行う。また、ジグソー法などの学び合いや、異学年交流などによって、多面的な思考力を身に付ける。 【池田校舎】国内フィールドワークや、海外研修、専門家との対話など、キーコンピテンシーを伸ばす学習プログラムに取り組む。また研究の成果を、一人ひとりが英語での報告書にまとめる。
グローバル探究Ⅲ	3年 1単位	【共通】これまでの研究活動の取組をポートフォリオにまとめ、研究成果を論文にまとめる。また、自分のキャリアを設計し、一人ひとりの特性に応じた発展的な研究に取り組む。

【図3】訓練における主体性コモンルーブリックのローカライズ

(附属高校平野校舎における防災学習・訓練の評価指標)

	自助・共助・公助を実現させるための主体性コモンルーブリック (主体性・協働力・他者理解)		
	A	B	C
【公共意識】 社会の一員としての自己を認識する力	学校における災害発生時、自分の置かれた環境を客観的に理解し、全体の被害を最小限にするために自分の役割と高校生としてできることを認識し、行動にうつすことができる。	学校における災害発生時、自分の置かれた環境を客観的に理解し、被害を最小限にするために自分の役割を認識することができる。	学校における災害発生時、自分の置かれた環境をおおむね理解し、被害を最小限にするために自分の身を守るうることができる。

【図4】平野校舎の訓練のイメージ



③ 課題

☑石川能登半島地震等での教訓を生かして、災害発生時の生徒たちの下校・保護者への引き渡し時のタイミングを具体的に検討し、学校安全計画に反映させていく必要がある。

☑自然災害等の不測の事態において、生徒たちの心のケアや学校再開へむけての手続きを明示した計画が求められる。

☑高校生は、災害時において、地域の自主防災組織や家庭での貴重な力となる可能性が考えられる。災害時の被害を軽減させるために、地域とのかかわりをさらに強化していく必要がある。次年度は、SPS認証へ向けて取り組みをさらに加速していく。